資料５

令和５年度地域福祉コーディネーター事業　具体的取組（抜粋）

令和６年３月１９日
調布市社会福祉協議会

Ⅰ　相談支援

１　個別支援に対する対応

（具体的な取組内容）

地域へのアウトリーチを通して，潜在的な支援ニーズの早期把握に加えて，複合化・複雑化した相談に対して，多機関との連携しながら包括的に受け止め，課題解決に向けて支援を行う。また重層的支援体制整備事業に関わる検討へつなげていく。

（具体的な成果）

⇒令和５年度１月末時点　新規個別相談件数３６４件

⇒令和６年度１月末時点　複合課題を有する継続支援対応件数１，７５６件

⇒地域住民からの見守りや近隣トラブルが発端で関わるケースは複数受けている。その場合の傾向は，当事者へのアプローチに至らない，当事者に主訴が無い，傾聴・共感のみでその先にたどり着かない，世帯同士が影響し合うことにより，課題の本質にたどり着かないことが挙げられる。社会的孤立と発達障害や精神的な障害の疑いなどが背景にあることがある。このようなケースはつなげる先もなく長期化しやすい。多機関での対応が求められる。

⇒８０５０問題のケースは，介護が必要な親と精神疾患を持つ子というケースに限らず，社会的孤立，家庭内不和，経済的困窮，介護負担，診断がつかない身体症状など様々な要因が複合的に重なることで，相談につながっても，多機関連携していても支援が進展しにくいケースがある。アウトリーチ等を含めた長期的な対応が求められることが多い。

２　重層的支援体制整備事業に関わる検討

（具体的な取組内容）

福祉総務課及び関係機関，調布市社会福祉協議会各課・係とともに，「多機関協働事業」における支援会議及び重層的支援会議等のあり方を検討する。また「包括的相談支援事業」「参加支援事業」「地域づくり事業」「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」に対する地域福祉コーディネーターとしての効果的な役割を検討する。

（具体的な成果）
⇒支援会議２件，重層的支援会議１件を実施。
⇒重層的支援会議（本人同意）のケースにおいて，参加支援として，本人の趣味である映画鑑賞のニーズを受け，地域内のバリアフリー映画体験会へつなぎ，定着支援を実施。運営支援をしている地域のボランティアコーディネーターを紹介し，つながりの発展が生まれることを目指している。

３　福祉圏域別専門職等ネットワーク会議
（具体的な取組内容）
　専門職同士の顔の見える関係構築及び地域情報の有機的な共有，相談支援に対する共通認識を通して，連携のしやすさ向上や複合化・複雑化した支援ニーズに対する連携体制の強化を図る。
（具体的な成果）
⇒行政福祉部署や地域包括支援センターなどの関係性の深い公的支援機関だけではなく，急性期病棟のソーシャルワーカーを交えて会議を実施したことで，地域の実状を様々な分野・視点から共有することができた。多様な支援ニーズに対応するため，公的な地域資源だけではない連携を強化することができた。
⇒４圏域合同で実施したエリアについて。個々の圏域に捉われない課題感を共有し，それぞれ圏域担当の支援方法を参考にできる場ともなっている。機関によっては圏域をまたがる担当が参加しやすい工夫としても効果的である。また単一の圏域で実施する方が効果的な圏域もあるため，地域の実情に合わせた実施を心掛けている。

４　相談支援機関との情報交換及び連携会議
（具体的な取組内容）
　相談支援機関と地域福祉コーディネーターとの役割等の共有や機関が抱える相談ニーズ及び支援対応における課題等の共有を行い，より強固な連携体制を目指す。また重層的支援体制整備事業への理解を高め，建設的な検討へつなげる。
（具体的な成果）
⇒多摩府中保健所との情報交換を行った。互いに複合的な課題を抱えるケースやひきこもりや医療拒否等のなかなか支援対応が難しいケースの支援を行い，互いの立場や強みを活かして連携していくことを共有し合った。
⇒ゆうあい福祉公社ヤングケアラーコーディネーター及び子ども家庭支援センターすこやかとの情報交換を行い，市内のヤングケアラーへの支援状況を共有した。また重層的支援体制整備事業の目的や調布市での取組み方法を共有し理解を深めた。
⇒子ども家庭支援センターすこやかとの情報交換を通して，主に子育て世帯の親子ともに生活課題がある相談が多岐にわたり，複雑化・複合化しているケース等の対応について共有を行った。またＣＳＷの強みである地域のインフ

ォーマル資源の活用や個別ニーズの一般化をもとに地域づくりに反映する狙いを伝えることができた。

Ⅱ　地域づくり

１　地域住民との協働（地域支援）

（具体的な取組内容）

地域住民等による地域活動や団体の立ち上げ支援や運営支援を通して，地域生活課題の把握や担い手づくりとともに地域福祉コーディネーターの啓発を行う。また相談の受け皿機能となるよう活動者へ働きかけを行う。

（具体的な成果）

⇒令和５年度１月末時点　新規地域支援相談件数３１０件

⇒地域支え合い推進員やボランティアコーディネーター，地域包括支援センター等と協働しながら，より多くの地域住民との活動の支援を行った。

⇒各圏域にて子ども食堂の立ち上げ支援や運営支援，関係づくりを行い，現在市内で把握している子ども食堂は２７箇所となった。また圏域を超えた子ども食堂同士の情報共有ができる機会を作っていく。

⇒既存の地縁組織（自治会や地区協議会）等の取組に積極的に参加し，関係づくりを図るとともに，生活課題ニーズや地域での取組の紹介等を通して，働きかけを行った。

２　第６次調布市地域福祉活動計画策定

（具体的な取組内容）

８つの福祉圏域ごとでの圏域策定会議と全域策定委員会等を通して，地域住民等と地域のことを考えるプロセスを大切にし，活動計画推進でより多くの取組や担い手づくりへつなげていく。また福祉３計画（行政計画）との連動性を意識しながら，進める。

（具体的な成果）

⇒第６次調布市地域福祉活動計画策定において，市全域策定委員会と８つの圏域策定会議の９つの会議体を設定し，それぞれの想いやアイデアを反映させた活動計画の策定を行った。総勢約１７０名の地域住民等に声掛けを行い，地域ごとの実情や市全域の視点ならではの想いに合わせて，より地域住民の声を反映させる内容になるように心掛けて行った。

３　ひきこもりプロジェクト

（具体的な取組内容）

令和元年度より，ひきこもりや生きづらさを抱えた方への支援として，当事者やその家族とともに進めてきた家族会や当事者会，女子会等との関わりを継続し，当事者等の声を拾いながら，市域を超えた他市との連携を今年度も行っていく。

（具体的な成果）

⇒「ひきこもり家族会やまぼうし」は８回開催。また有志家族２名を第６次調布市地域福祉活動計画策定の全域策定委員として迎え，ひきこもり当事者の家族目線からの意見を挙げてもらった。その結果，多くの想いやアイデアをいただき，活動計画内容に盛り込むことができた。

⇒当事者会「ちょうふのこやど」は１０回開催。また協働主催者のひとつである「生きづらわーほりプロジェクト」による市内の活動への支援も行った。ＣＳＷの個別相談者の参加支援先であり，活動参加者からＣＳＷの個別相談につながるケースもある。また生きづらさを抱える方の理解啓発にもつながっている。

⇒「生きづらわーほりプロジェクト」と協働開催で，ひきこもりや生きづらさを抱えた，ママ当事者に特化した会を２回実施。市内の支援機関とのマッチング，広報の協力，会のあり方の検討を重ねながら，支援を行った。

⇒「調布女子会のまま」は１０回開催。また当事者兼代表者を第６次調布市地域福祉活動計画策定の全域策定委員として迎え，ひきこもりや生きづらさを経験した者の目線からの意見を挙げてもらった。

会の運営面では，メディア取材や，他機関からの視察などをコーディネートし，生きづらさを抱えた当事者女性（自認を含む）の普及啓発を行った。また，参加する女性の生き方や暮らしを向上させるような企画を協働で考案し，実施した。

⇒起立性調節障害の子を子育てする保護者の想いから，北部のエリアを中心に起立性調節障害をテーマにした映画上映や起立性調節障害等に悩む当事者及びその家族を対象にした茶話会・勉強会「そらカフェ（てのひらドロップス）」の立ち上げ支援をした。今後は他地域での同様な居場所へ広げることや起立性調節障害に限らない様々な理由で不登校状態に悩む方を対象にした居場所に発展することを目指している。

４　地域福祉ファシリテーター養成講座

（具体的な取組内容）

ルーテル学院大学と他市との連携により，地域福祉推進の担い手づくりを行う。また調布における地域福祉ファシリテーターとしての役割や目的の検討を行い，フォローアップへつなげる。

（具体的な成果）

⇒令和５年度（３期生）について，講座修了７名。

⇒受講希望理由や背景は様々であった。企業内デザイナー（ユニバーサルデザイン）を退職後に福祉とデザインをテーマに活動中，子どもが不登校，自身も障害があり障害者雇用促進の活動中，ひだまりサロン「みんなDEネットサロン」参加し地域福祉の大切さを感じた，これまで運動を通じた地域支援事業に携わってきた，自身も生きづらさあり，自分らしく活動して人の役に立ちたい等の想いを持った方が受講した。

⇒グループワークを進める中で，既に活動中の受講生とこれから新たに考えて

いきたい受講生，方向性も異なる中で，受講生として最終発表として１つの形にまとめるのに困難あるとＣＳＷに相談あった。そのプロセスも含めて大切であること働きかけるとともに，見守りながらサポートを行った。

⇒受講終了後，ふふ富士見で不登校の子どもたちの居場所作りを発起した人，起立成長性障害の親の居場所や地域啓発活動をより一層行っている方等，それぞれの想いを形にし始めている。地域づくり事業勉強会にも３期生数名参加予定。１期生，２期生との交流も含めて，今後フォローアップしていきたい。

５　地域づくり事業

（具体的な取組内容）

地域福祉ファシリテーター養成講座修了生調布１期生及び２期生とともに，調布市における地域生活課題や既存の社会資源の把握を行う。また地域住民に対しての働きかけ及び福祉啓発を目的とした講座等を，講座修了生による企画立案・運営で実施する。

（具体的な成果）

⇒地域福祉ファシリテーター養成講座修了生のフォローアップを目的に，修了生とＣＳＷによる勉強会の企画立案，運営等をＣＳＷの視点で意識してもらいながら，実施に向けて準備をしている。

今回は１期生と企画立案を行い，「防災」をテーマにした勉強会を実施（３／１７）。防災の理解を深めるだけではなく，個人や地域でできることを考えるきっかけづくりを目的とする。1期生との打合せから地域づくりを意識した企画であることを働きかけている。今回の勉強会をきっかけに地域で同様の企画や地域資源の把握など何かの活動につながることを期待している。

６　企業との連携及び企業への働きかけ

（具体的な取組内容）

令和４年度に２回実施した企業のスタッフ（整理収納アドバイザー）による親子向けワークショップを,回数を増やして実施する。子どもや子育て家庭向けの自己肯定感の向上及び子育て負担の軽減につながる取組を,企業の強みを生かした地域貢献を活用しながら,地域住民を巻き込んで実施する。

（具体的な成果）

⇒無印良品による地域貢献。地域の親子向けワークショップを２回実施。前年同様地域活動者にも運営を協力してもらい，企業と地域と社協での連携で実施することで，企業と地域活動者の接点の創出にもつながっている。

また地域向けのワークショップの周知をした際に，公立中学校の特別支援級の教諭の目に留まり，授業でのゲストティーチャーへの依頼があり，マッチングを行った。企業の地域貢献が教育機関とＣＳＷの共同企画への発展につながった。

⇒企業から，認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえを通じて，

アニメ完成披露試写会に子ども食堂参加者への無料招待企画の相談を受ける。子ども食堂等の運営者への周知協力のための調整や申込受付の調整などの支援を行った。試写会の開始前に「子ども食堂と調布社協」というＰＲ動画の上映をしてもらい，普段福祉に接点のない方へのＣＳＷのＰＲ及び働きかけを行うことができた。

⇒企業による子ども食堂等向けのバナナ無償提供。月の配送回数や提供箱数の制限があるため，市内の子ども食堂へバランスよく提供するため，地域福祉コーディネーターが調整を行っている。企業とより多くの地域活動団体がつながりを持つことができるように支援をしている。